

板ジャッキによる人命救助工法

従来の建物倒壊の人命救助には、倒壊物を除去するには、色々な問題があった。

コンクリートのような重量物を撤去するには、クレーン車等の大型作業車によって撤去していたが、地震等の場合大型作業車を入れず、コンクリート倒壊物にコアボーリングマシン、エンジンカッター等で切断し救助通路を確保したり、コンクリート倒壊物をブリーカー等で細かく砕いたりして救助通路を確保していた。

しかし、この工法では時間が掛かり過ぎ、一刻も早く救助する為にはもっと早い工法が望まれていた。

そこで、短時間で救助通路を確保出来る**板ジャッキを利用した工法**を開発した。

板ジャッキは板厚が2.4mmと薄く、膨張力が非常に大きい。コンクリート倒壊物には必ず僅かな隙間があるので、その隙間に板ジャッキを入れ倒壊物を持ち上げ、救助通路を容易に確保する事が出来る。

板ジャッキの膨張力は非常に大きく、例えば**60cm * 60cm の板ジャッキに圧力80kg/cm²の圧力を掛ければ約280Ton**の力となり、容易に倒壊物を約37cm程持ち上げ救助通路を容易に確保出来る。

この板ジャッキの**重量は薄い鉄板で構成されている為、重量が非常に軽く人が簡単に持ち運び出来る利点があり、又ポンプも小型軽量の物で充分である。**

この板ジャッキを膨張させるのに水を使用するので、環境の面でも他に影響ない。